

とこい洋治
県政報告

笑顔大好き

EGAO

DAISUKI

2006.10.21
VOL.27
とこい洋治後援会
〒319-0205 笠間市神辺1745
TEL.0299(45)6818
FAX.0299(45)0818

友部SAスマートIC恒久化記念

平成18年10月1日



▲念願の友部SAスマートIC恒久化の実現を喜び、記念式典であいさつする常井洋治議員。北川根小学校のブラスバンドのすばらしい演奏(右写真)が式典を盛り上げた。(18年10月)

着々と公約実現、皆さんが原動力!

●友部SAスマートICが10月1日から恒久化

—24時間、全車種利用可能—

この度、常磐道友部サービスエリアのETC専用インターチェンジ(友部SAスマートIC)の恒久設置が決定しました。今月10月1日から、全車種が24時間利用できます。17年7月1日から本年9月30日まで実施した社会実験では、本年9月現在で、平日1日平均1,281台、土日祝1日平均996台の利用状況となっていました。この実績が評価され、恒久化が認められました。社会実験にご協力ご利用頂きました皆様はじめ、ご尽力を頂いた国・県・市・協力団体の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

常井議員は、平成11年第3回定例県議会での一般質問を皮切りに、このICの実現を強く要請してまいりました。県議会でも常井議員が初めて取り上げ、県から国への要望を経て、ETCの急速な普及を背景に国の制度ができ、実現の運びとなりました。常井議員に対する皆様のご支援が、公約実現の大きな原動力になりました。

これを契機に、今後も多くの皆様にご利用頂き、地域の利便性の向上と活性化に役立つことを願っています。同時に、隣接する茨城中央工業団地(笠間地区)〈旧総合流通センター〉の早期着工に結びつけるために、常井議員は引き続き頑張っています。

●県立中央病院の産科・小児科入院、19年4月の再開を目指す

—古田病院事業管理者が決意を表明—

予算決算特別委員会での常井議員の質問に対し、古田病院事業管理者は、県立中央病院で休止している産科と小児科入院について、来年4月を目途に再開を目指すかと答弁しました。(3ページ参照)1日も早い再開を求め続けてまいります。



常井議員が、皆さんとともに頑張る!

着実に進む、地元の道路・河川整備

—地元の声を水戸土木事務所へ25項目要望。筑西土木事務所へは、9項目。—

常井洋治議員は、毎年地元の声を独自にまとめた「常井洋治の要望書」を作成して、土木事務所の幹部の皆さんと勉強会を開き、個別に現況を聞き、今後の対応を求めています。

常井議員は、毎日、県政報告のために有権者の皆様に訪問していますが、その中で聴いた貴重な生の声が含まれています。水戸土木事務所では、7月24日、鈴木敏博所長、柏純一次長以下関係課長が全員出席して、勉強会が開かれました。

今回から、岩瀬地区は、筑西土木事務所の管轄になりましたので、その分については別途要望書を作成して、早乙女秀男所長に提出しました。勉強会での結果の概要を一部お知らせします。

友部地区

- 県道大洗友部線(橋爪地内)の改良整備と穴戸橋の架け替え**
 - ・ここ数年、作業が中断している。この勉強会を踏まえて、今後の方針について本庁・笠間市と協議していく。
- 環状道路宿大沢線の残り640mの早期開通(都市計画道路宿大沢線)**
 - ・7人の地権者の協力をいただき、平成22年度の開通を目標としている。
 - ・現在の友部小前の市道との交差点の整備については、19年度中にめどをつけたい。(信号は、設置済み)
- 穴戸小～旧畜産試験場の早期整備(都市計画道路上町大沢線・県道平友部停車場線)**
 - ・穴戸小～大沢跨線橋(900m)は合併支援道路として、笠間市が施行。18年度測量、19年度買収予定。
 - ・旧畜産試験場を通る県道の現道拡幅を行う。18年度測量予定。
- 友部サービスエリアのETC専用インターの恒久設置**
 - ・全国31の社会実験箇所中4番目の利用率なので、9月中の恒久化決定に向けて努力している。(10月1日から恒久化した)
- 友部駅北口開設に合わせた南友部地内の道路整備(県道杉崎友部線)**
 - ・北口付近は市、その他は県が施行する。
 - ・18年度県施行事業費は、1,000万円。12mに拡幅。18年度測量、19年度買収予定。
- 総合流通センター関連道路の整備促進**
 - ・茨城中央工業団地方面への未契約用地1件については、引き続き交渉中。
 - ・石岡城里線のバイパス(長兎路、安居地区を通過予定)は、企業立地の動向をみながら対応する。
- 仁古田十字路の交差点改良(県道大洗友部線)**
 - ・18年度に工事を実施。事業費4,000万円。涸沼川方面への歩道工事は残る。
- 内原カントリークラブ～岩間街道までの拡幅改良(県道内原友部線)**
 - ・18年度用地買収。18年度事業費500万円。
- 涸沼前川の河床しゅんせつ・草刈り(小原・市原地区)、涸沼川の竹木の伐採・草刈り(湯崎・住吉・仁古田地区)**
 - ・いずれも18年度実施予定。一部実施済み。

岩間地区

- 国道355号石岡岩間バイパスの整備促進**
 - ・旧八郷町内の用地買収が1カ所だけ難航。引き続き交渉中。
 - ・JR常磐線の跨線橋は、18年度から上部工に着手。
- 桐山～大笹の現道拡幅(県道上吉岩岩間線)**
 - ・17年度から用地買収に入ったが、境界未定地・相続整理がある。
 - ・18年度も用地買収。事業費4,000万円。
- 岩間街道土師十字路付近の整備促進(県道水戸岩間線・茨城岩間線)**
 - ・18年度水戸岩間線側の用地買収を継続。19年度に桜井橋への歩道橋着手予定。

・茨城岩間線側は、19年度から測量予定。

- 長沢区～吾国山洗心館の通行不能道の解消(県道南指原岩間停車場線)**

・18年度に保安林の解除手続き及び用地買収。事業費1,600万円。
・計画の残延長1,500m。私有地部の最後の500mの用地買収を進め、18年度で完了予定。残りには国有林。

- 百里飛行場へのアクセス道路一開港前に全線新設道路で整備**
 - ・全線新設ではなく、納場十字路を経由した現道利用のクランク型道路で計画を進めている。
- 国道355号の安全・維持対策**
 - ・通学児童の安全対策のため栄町地区の定期草刈り、新渡戸地区の側溝清掃を実施済み。
- 随行寺川・桜川のしゅんせつ及び涸沼川の竹木の伐採**
 - ・しゅんせつは、土砂たい積のひどい箇所から継続して実施していく。
 - ・下安居、下押辺地区の堤防の竹木の伐採を実施済み。下流側へ、順次実施する。
- 下安居地区の道明池(ため池)の漏水対策**
 - ・水戸土木事務所と水戸土地改良事務所と市が、原因解明の調査中。



▲水戸土木事務所では、鈴木敏博所長(常井議員の左隣)以下関係課長7人が出席して勉強会を開催。地元の皆さんの声を伝えた。(18年7月)

岩瀬地区

- 松田・友部地内の道路幅員狭小、曲折による危険の解消(県道西小塙石岡線)**
 - ・都市計画道路3・5・38号を代替バイパスとして合併特例債を活用して整備すべく、桜川市と協議を進めている。
- 南飯田地区・門毛地区の道路整備促進(県道西小塙真岡線)**
 - ・南飯田地区は、18年7月に工事完了済み。
 - ・門毛地区の早期着工に向け、用地取得を進めている。
- 山口地区～稲田地区の道路拡幅改良(県道富谷稲田線)**
 - ・18年6月山口地区の工事完了済み。
- 木植～笠間市福原の道路整備(県道土浦笠間線)**
 - ・旧八郷町板敷地区の狭隘部、屈曲部の整備を先行実施する。その進捗状況を見て木植(きうえ)地区に対応する。
- 小塩地区・山口地区の桜川のたい積土砂の除去**
 - ・小塩地区については、17年度に坂本橋下流の堰から県道富谷稲田線の川端橋間の延長850mの土砂撤去を実施した。山口地区も含め、今後たい積の状況を見て対応したい。
- 筑西幹線道路の整備促進(岩瀬IC～古河市まで延長43km)**
 - ・概略ルートをもとに、早期に詳細ルートを決めていきたい。
 - ・岩瀬ICから国道50号の4車線拡幅計画(1.6km)があり、筑西幹線道路の一部として認定される予定。

予算決算特別委員会 質問要旨

(H18.9.22)

I 県住宅公社等に対する県支援のあり方について

— 県民不在の血税の使い方に異議あり! —

知事提案説明の概要

県住宅供給公社及び県土地開発公社は、17年度決算で、減損会計処理（時価評価）をした結果、合わせて約558億円の債務超過となり、このままでは、今後の経営の継続が困難になった。

両公社の民間金融機関からの借入金（両公社で843億円）について、県はほぼ全額を損失補償又は債務保証をしているため、両公社が金融機関から繰り上げ償還を求められている金額（両公社で683億円）を県が肩代わりする必要に迫られている。

その対応策として、県は、①債務超過分については、10年間で段階的に解消することとし、両公社に対して毎年それぞれ10分の1相当額（55億8千万円）を補助する。（住宅公社は、10年後に自主解散する。）②補助金で全額処理し終わるまでの間、毎年度不足する額については、単年度無利子貸し付けにより支援する。③これらの支援を行うための所要額として総額694億5,500万円を補正予算案として提出した。

常井委員の意見の開陳

1. 債務超過への対応策が今回の1案しか提示されないため、どの案がベストなのか比較できない。
 2. 県民、有識者、専門家も含めた第三者委員会を設置して原案を検討すべきだ。「万機公論に決すべし」である。そこで県民にも職員にも、なぜこうなってしまったのかを考える機会をつくり、今後この轍（てつ）を踏まない教訓にすることが大事だ。
 3. 融資の繰り上げ償還を求める金融機関との交渉経緯が不透明だ。知事は、県民の側に立って、金融機関の協力を求めてトップ交渉をすべきだった。
 4. 今回案では、今後の損失額の拡大についての対応が欠落している。最近、県内基準地価が公表されたが、地価は、引き続き下落傾向にあり、新たな債務超過が予想される。今後も、10年間にわたってその処理に県民の税金を際限なく投入して行くのか明確にすべきだ。橋本知事の任期（あと3年）中に検証して、今任期の責任を明確にする仕組みを含めて示すことが、最低限のけじめだ。
 5. 知事らの責任の取り方は、不明確で不十分だ。
- 以上、5点について意見を述べ、知事に答弁を求めました。

常井委員は、今回の支援策は、県民不在のもとに性急に作成された安直にして粗雑なものであり、もう一度県民合意のもとで適正な手続きを経て練り直すべきだと述べました。また、今回の処理は、今後の県開発公社などの損失処理に大きな影響を与えるので、よく考えて論議すべきだとして、議案の撤回を求めました。

そして、同委員は、今回案による県民の血税の使い方



◀ 県民一人ひとりの大切な血税の使い方には、「県民の心を取り入れるべき」と橋本知事に鋭く迫る常井委員。

に最後まで納得できず、議案に賛成できないとして、本会議では、会派の全議員とともに採決を棄権しました。

II 県立病院の経営改革について

— 中央病院の産科・小児科入院の再開を求める —

常井委員 県立病院の退職手当は、従来病院会計の中で引き当てがされていなかったものを、17年度から5分の4を病院会計で、5分の1を一般会計で負担することになった。県立中央病院だけでも、17年度は、退職金の支払いが6億8,000万円、その内病院負担は5億4,000万円となっている。病院局が一生懸命経営改善をしようとしてもハードルが高すぎるのではないかと。

古田病院事業管理者 （退職手当の負担は、）病院改革を推し進め、財政基盤の立て直しに取り組みはじめた矢先に友部病院の資金不足により経営危機が生じた一因でもあり、県立病院の財政基盤が脆弱な現時点において病院改革を進める上で大変大きな足かせであると言わざるを得ない。

県立病院存続を目指すためには、給与削減提案を組合に受諾してもらうとともに、退職金等病院経営を悪化させるものをできるだけ軽くして改革を進めていかねばならない。

常井委員 病院局では、職員給与カットに力を入れているが、リストラ効果だけでは経営改善は図れない。医業収入を増やす戦略をどう立てているのか。中央病院では、ドル箱といわれる産科と県民の要請が強い小児科の入院受け入れを休止しているが、経営改善の中でどのように位置づけていくのか。早期再開を望む県民に答えて欲しい。

古田病院事業管理者 両診療科については、全国的な産科医、小児科医の不足という深刻な状況の中で、人材の確保の努力を指示してきたが、実現できていない。

しかし、現在私自身が人材確保に動き出しており、来年の遅くとも4月頃には、両診療科の再開を目指している。

中央病院は、本県で唯一の県立総合病院であり、県民の皆様の要望に応えると言うことは当然だ。いち早く両診療科を充実し、そのスタッフを確保する必要があると認識している。

※常井委員は、この他に「ワープステーション江戸を巡る諸問題の早期解決」について質問しました。

農林水産委員会 (要旨) (H.18.9.15)

- 土地改良施設の更新に本格的に取り組もう。
- 岩間地区のイノシシ被害対策に県も本腰を。
- 生分解性マルチシートを安く普及させよう。

常井委員 土地改良事業で作った堰や機場、水路、パイプラインなどの老朽化が進んでいる。これらの施設の更新にどう対処するのか。

小山農村計画課長 耐用年数が過ぎて、これから更新しなければならない施設がかなり多い。限られた予算で施設の更新を行うため、適期に機能診断・補修を行い、長寿命化を進める。

常井委員 ため池のしゅんせつなども含めた農業基盤の整備は一朝一夕ではできない。将来の農業を見据えて、順次更新して整備していく方向付けが大事だと思うが。

谷貝農地局長 今年3月に「第6次土地改良5カ年計画」を策定した。その中でも、農業の生産基盤である畑や水田の整備を推進することが重要と考えている。土地改良は、現場提案型の事業なので、今後も、地元農家の要望を丹念にくみ上げ、元気で力強い農業・農村づくりを進めていきたい。

常井委員 岩間地区でイノシシが里に下りてきて農作物に被害が出ている。人体に対する危害も住民は心配している。県も、本腰を入れて対策を講じるべきだ。

中村農産課長 16年度の県内のイノシシの被害は、稲・芋を中心に8,500万円ほどだ。13年度は3,000万円程度だったので、近年著しく増えている。岩間地区の被害状況、対応策は、笠間市の方で関係者を集めて検討することになっている。

※県は、既に常井議員からの事前の要請を受けて、市に働きかけて協議を進めています。

常井委員 バイオマスプラスチックの実証プラントを北茨城市に作る補正予算を計上したが、生分解性マルチシートの値段の低減に役立つのか。

朝日園芸流通課長 この事業で、コスト低減が実証できれば、もっと普及して茨城農業の生産にも大いに貢献できると考えている。



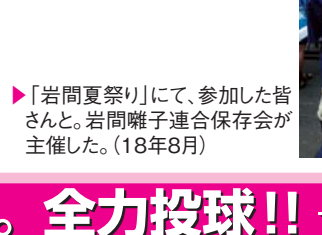
▲第1回愛宕杯親善ゲートボール大会には、猛暑の中約200人の元気な高齢者が参加した。あいさつする飯田行夫会長さん。(18年7月)



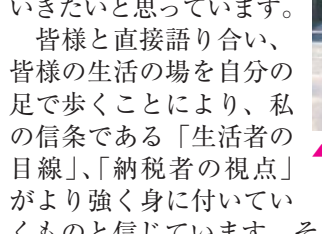
▲笠間市合併記念式典で、後世に誇れる新市づくりを語った。(18年7月)



▲「笠間のまつり」にて、かさま観光大使の皆さんと。(18年8月)



▲友部地区で「旭町夏祭り」が盛大に開かれた。子供達にとって良い思い出になるでしょう。旭町ソフトボール愛好会の皆さんが主催した。(18年7月)



▲「岩間夏祭り」にて、参加した皆さんと。岩間囃子連合保存会が主催した。(18年8月)



▲笠間市合併記念式典で、後世に誇れる新市づくりを語った。(18年7月)



▲笠間芸術の森公園に「あそびの杜」が開園。子供達に人気の遊具がいっぱいだ。入場無料。(18年7月)

▲合併後の笠間市区長会の設立総会が開催された。320人の区長さんを中心に市民と行政の協働が求められる。(18年7月)



▲「笠間のまつり」にて、かさま観光大使の皆さんと。(18年8月)



▲友部地区で「旭町夏祭り」が盛大に開かれた。子供達にとって良い思い出になるでしょう。旭町ソフトボール愛好会の皆さんが主催した。(18年7月)

燃える郷土愛。全力投球!!

皆様の日頃のご支援に対し、深く感謝申し上げます。さて、私は今、2期目4年間の県議会での発言をまとめた「とこい洋治の主張(Ⅱ)」の冊子(30ページ)を持って、有権者の皆様のお宅を訪問しています。自分の発言と行動に責任を持って、信託を受けた皆様に報告をしていきたい一念からです。いわば、4年間の成績を評価してもらうような心持ちです。

一軒でも、一人でも多くの皆様に直接お会いして説明したい気持ちでいっぱいですが、なかなか思うようにはいきません。お留守のお宅も多いし、現職ゆえに時間的制約もあります。それでも、友部・岩間地区は、私自身が一冊ずつ直接お届けする原則は守っています。

今年の梅雨は、雨が多かったので長靴を履いて歩きました。やっと、夏らしくなったあとは、すっかり日焼けしました。愚直ではありますが、これからも毎日、皆様に県政報告

をするために歩を進めていきたいと思っています。

皆様と直接語り合い、皆様の生活の場を自分の足で歩くことにより、私の信条である「生活者の目線」、「納税者の視点」がより強く身に付いていくものと信じています。そして皆様の、生の声をたっぷりと承り、しっかりと県政に反映していきたいと考えています。出会った際には、どうぞお気軽に声をかけてください。

私、常井洋治は、皆様のご用聞きに徹してまいります。引き続き、ご支援をお願いいたします。

茨城県議会議員 **常井洋治**